

講演レポート：澤登雅一の医療情報セミナー

「有害ミネラルの体内蓄積と健康」

～水銀デトックスで重金属の体内蓄積を回避する！～

アンチエイジング医療をご提供する三番町ごきげんクリニック（東京都千代田区）の院長、澤登雅一が、医療情報セミナーにて「有害ミネラルの体内蓄積と健康」について講演しました。

■意外に知られていない、「水銀蓄積が高い日本人」の実態

澤登は講演冒頭、マグロなど大型回遊魚を好み、世界でもっとも多く魚を摂取する民族である日本人は、体内に蓄積する水銀の蓄積量が欧米人に比べて2～6倍に及ぶことを紹介。三番町ごきげんクリニックで過去に実施した「毛髪ミネラル検査結果」520症例の結果、水銀蓄積の基準値を超える人が46%にも及ぶことを明かしました。

■有害ミネラル蓄積による症状

また、有害ミネラルの蓄積による症状として以下を提示。5つ以上の症状がある場合は、有害ミネラルの蓄積度を確認する検査をすることを薦めました。

<有害ミネラル>

水銀
カドミウム
ヒ素
鉛
アルミニウム

<有害ミネラルの蓄積による症状>

疲れやすい 肌荒れ 便秘・下痢
 筋肉・関節の痛み イライラや集中力低下
 目の疲れ メンタルの不調 アトピー性皮膚炎
 体重の増加 冷え性 肩こり めまい しびれ
 風邪をひきやすい 頭痛・頭が重い 不眠
 味覚・嗅覚の異常 不妊 むくみやすい
 生活習慣病がある（肥満・糖尿病・高血圧など）

■有害ミネラルの蓄積を調べる方法と蓄積への対策

澤登は、有害ミネラル蓄積を調べる方法として、「毛髪ミネラル検査」と「尿検査（尿誘発試験）」をあげ、それぞれの方法やメリットを紹介。さらに、蓄積度合いが高かった場合の対策として次の4点について解説しました。

有害ミネラル蓄積への対策（詳細は、別紙ご参照のこと）

- ①有害ミネラルの暴露を減らす。
- ②必須ミネラル（拮抗ミネラル）を摂取する。
- ③体内の解毒機能を高める。
- ④体内からの積極的な排出（キレーション療法、チオラ）

■水銀の排出作用が注目されるチオラ錠

澤登は、日本人の体内蓄積が高い水銀の排出対策のひとつとして、「チオプロニン」（チオラ錠）について詳しく紹介しました。チオラ錠は、日本で水銀排出剤として保険適応があり、キレーション療法の副作用である必須ミネラル排出が少ないことを説明。また、三番町ごきげんクリニックでの臨床研究で明らかになった排出効果について解説しました。さらに、「チオプロニンによる水銀排出と健康に与える影響に関する検討」の臨床研究を慶応義塾大学眼科学教室と共同で進めていることをご紹介しました。

◆有害ミネラル蓄積を調べる検査

①毛髪検査（スクリーニング検査）

過去3～6ヶ月にどのような有害ミネラルに暴露されたかを評価するのに有用な検査。根元の毛髪を数箇所から切って提出し、2週間程度で検査結果が出る。

②検査（尿誘発試験：精密検査）

体内の有害ミネラル蓄積度合いを詳細に調べる検査。キレート剤を点滴もしくは内服後、6～24時間尿を溜め、尿中に排泄される有害ミネラルの量を測定する。治療効果を評価する際にも有用。

◆有害ミネラル蓄積への対策

①有害ミネラルの曝露を減らす。～魚の食べ方～

魚にはオメガ3脂肪酸など身体に有益な栄養素も多くあるため、魚を摂らないことは適切な対策ではない。魚を日常的に摂取する場合、水銀が少なく、EPAやDHAが取れるサケ、マス、ニシン、サンマ、アジ、イワシ、キスなどを選び、有機水銀が濃縮するキンメダイ、カツオ、スズキ、マグロなどは少なめにする。

②必須ミネラル（拮抗ミネラル）を摂取する。

食事やサプリメントなどの摂取によって、蓄積度の高い有害ミネラルの拮抗ミネラルを意識的に摂取する。

<有害ミネラル>

鉛

ヒ素

カドミウム

水銀

<拮抗ミネラル>

セレン、鉄、亜鉛、マグネシウム

セレン

セレン、鉄、亜鉛、カルシウム、マグネシウム

セレン、カルシウム、亜鉛

③体内の解毒機能を高める

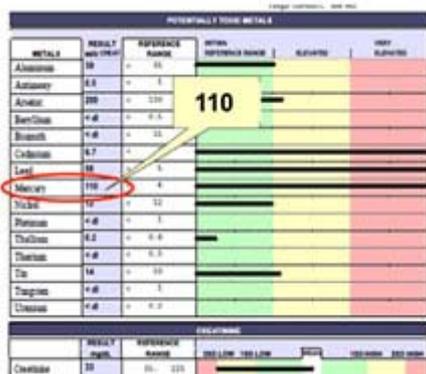
腸内環境を整える / 水分は体重の30分の1以上を目安に摂る / 運動（特にリバウンド運動）を心がける

④体内からの積極的な排出（キレーション療法、チオラ）

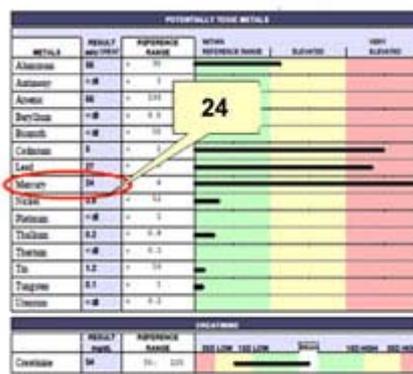
- ・体内で有害なミネラルと結合し、有害ミネラル全般を体外に排出するキレーション療法
- ・水銀の排出剤として保険適応のあるチオプロニン（チオラ錠）の経口摂取

◆当院における治療効果例 <30年以上苦しんでいた慢性頭痛が水銀排出により改善>

30年以上もの間、原因不明の頭痛（機能的頭痛）と診断され、痛み止めを飲む生活が続いていた53歳女性。毛髪検査・尿検査の結果、水銀の高濃度の蓄積が判明し、水銀排出のためのキレーション療法を6か月施行。水銀の蓄積は減り、それとともに頭痛の症状が改善している。



2007. 02. 09



2007. 08. 24

【澤登雅一 プロフィール】

1992年、東京慈恵会医科大学卒業後、血液内科医として日本赤十字社医療センターで白血病や悪性リンパ腫などの血液がんの臨床に従事。2005年より三番町ごきげんクリニック院長。病気を診る立場から、病気にならないことの重要性を痛感し、アンチエイジング医療を実践するとともに、ライフワークとしてがんの治療に力を注いでいる。医学博士。東海大血液腫瘍内科非常勤講師。日本抗加齢医学会専門医・評議員、日本内科学会総合内科専門医、日本血液学会専門医、米国先端医療学会(ACAM)キレーション治療認定医。これまでに開発したサプリメントは、レスベラトロール、ビタミンBコンプレックス、亜鉛、マルチミネラル、マルチビタミン、アレルギー対策サプリメントなど。著書に、『人より20歳若く見えて、20年長く生きる!』『ビタミンCはガンに効く』(ディスカヴァー携書)。



【三番町ごきげんクリニック】

- 設立年：2005年
- 事業内容：アンチエイジング医学の治療及びコンサルティング/がんの個別化治療
- 院長：澤登雅一
- 所在地：東京都千代田区三番町 8-1 三番町東急アパートメント 1101
- TEL：03-3237-0072
- URL：<http://www.cancerclinic.jp/>

＜お問い合わせ＞

三番町ごきげんクリニック 広報担当：大谷恵、市川美穂
TEL: 03-3237-0072 FAX: 03-3237-0039 E-Mail: info@kenko.org